



1000 キロを
超え
海を渡る蝶

関東大震災から

100年目に思う

今年の9月1日は、あの関東大震災から百年の節目の日でした。

マスコミはじめ、多くの市民の皆さんもそれなりに高い関心をお持ちだったと思います。

社民党が「関東大震災と虐殺」に焦点を当てた、社会新報(8月16日号)、そして月間社民民主(8月号)で解説と問題提起をしたことは時宜にかなった企画として非常に参考になりました。

多くの朝鮮人をはじめ、中国人、日本人が虐殺された事件は私もある程度知っていたつもりでしたが、特集を読んでこれまでの知識が薄っぺらで不十分であったことを思い知り、あわてて勉強し直しているところです。

気になる国会議論

そんな中で私に気になっているのは、この問題解決に向けた国会での対応が、百年一日のごとくほとんど進展が認められないことです。

世界的にも非難されてしかるべき、あの大量虐殺事件は政・公・軍・民が複雑に絡み合ったうえに、時の政権がその隠ぺい、矮小化を図ったため見えにくくなっています。

最大の問題は、一世紀にわたって歴代政権が全く責任を取ろうとして来なかったことにあること

を看過してはなりません。

国会の場で最初に議論をされたのは一九二三年十二月十四日の帝国議会でのことでした。二人の議員からの追及に対して、時の総理大臣・山本権兵衛は「目下取り調べ中」と答えたのみで、その後の調査結果の報告なども一切無く、そのまま太平洋戦争終戦まで22年間触れられることがなかったようです。

戦後は一九五〇年の「寡聞にして知らず」(吉田内閣)。二〇一七年の「記録が見当たらず答えられない」(安倍内閣)等、僅かな経過が知れるだけで前向きな対応はどこにも見当たりません。

百年目にあたる今年、立憲民主・社民会派から杉尾秀哉、福島みずほの両氏が先の第211通常国会の内閣委員会、法務委員会で「流言飛語の拡散に対する政府の責任」を質したが、「記録が見当たらない」といつもの逃げ答弁に終始したようです。(社会新報6月29日)

逃げの国会論戦を、このようにやる気の感じられない繰り返しでごまかすのは、まさに政治責任を放棄するものであり、問題解決できないのは明らかです。

いつまでこのような対応をしているのでしょうか。野党があきれて質問をあきらめるまで待とうとしているのか…。社民党の最後まで徹底した

追及と国民の見守りを期待いたします。

まずは民族差別を無くそう

百年前の虐殺事件の背景にあるのは、明治維新以降の帝国主義に基づく植民地支配と民族差別です。一九四五年の敗戦を機に日本の植民地は解消されましたが、民族差別的発言は今に残り続けたままです。それが災害や社会情勢の変化を受けて更にエスカレートすることに、百年前と同様な事件・事故の再発が心配されます。日本政府はこの民族差別根絶に向けて謝罪すべきは謝罪し、補償すべきは補償し、善隣友好と平和外交に改めて努めるべきです。

30年以内に70%〜80%の確率で南海トラフ巨大地震の発生が予想されています。巷間言われているように、AIやSNSの普及によって流言飛語はこれまでとは比較にならないほど早く拡散することが心配されています。

早急な対策を望みます。

(文責・河辺)



「こんなことが二度とあってはならない」。
千葉県八千代市高津の観音寺で行われた慰霊祭。(東京新聞9月14日)

(写真・編集事務局)

気づいたこと・感じたこと

「こんなに綺麗な海を

汚すこと許されない



8月24日午後1時、国・東電は、人類史上前例のない、環境汚染という超えてはならない一線を踏んでしまいました。原発事故でメルトダウンした原子炉に、地下水や雨水が流れ込み、デブリに触れた汚染水が発生して溜まりつづけた汚染水を、復興のためと海に流したのです。―中略―。2013年当時の安部元首相が、オリンピック誘致の「OOC総会で、汚染水問題を問われ「アンダーコントロール」と述べたことは、忘れられない出来事でした。オリンピック誘致したいその場しのぎの対応が、いまに続き、溜まり続けるから海に流す、これも、その場しのぎの対応だと思ったら。これから先どのような結果を招き、次世代へ負の遺産となるのか不安は尽きません。一日も早く海洋放出を中止して、汚染水発生の源を止める事と、流されたトリチウムや核物質の拡散がどのように起きているのかを第三者機関により随時追跡、調査をし、嘘や隠蔽なく、公表していく事だと思えます。

脱原発情報 発送担当者

千葉 親子

(いわき新舞子浜)



「なぜ防衛費を上げるのですか」

小学6年生の岸田首相への手紙

児童が書いた岸田文雄首相への手紙を入れた封筒が報道各社に送付された。手紙の内容は「なぜ、防衛費を上げるのか」という疑問である。東京都世田谷区の私立和光小6年の36人が今年初めに書いた手紙は次の通りである。

「私たちは、社会科や総合学習で沖縄のことや戦争のことを学んできました。戦争は遠い昔の話だと思ったのに、今も苦しんでいる人がいることや、今も続く問題であることがわかりました。「戦争は怖いし、絶対にやっつけたい」と思っていたのに、ニュースで防衛費をあげようとしていることを知りました。そこで岸田首相に「ぜひ聞いてみたい、伝えたい」という声があがって、クラスのみんなで手紙を書きました」。

児童らは、政府の安全保障政策への思いや疑問を綴った。「北朝鮮が日本にミサイルをうってきいていますが、うってきているから軍事費を増やすのはダメだと思えます」。「逆に中国などが怒って、攻撃してくるかもしれないと思いました」。「防衛費1兆円を他の税からとるのは、さすがにひどいと思えます。他の案はないのですか?」「自衛隊が、国を守る以外に、他国を攻めてもいいというルールになったのですか?」。

和光小では6年生が1年間、沖縄の歴史や文化、社会問題を学ぶ。集大成として3泊4日で沖縄県を訪れている。1987年から続く平和学習だ。そして 児童36人は、第二次世界大戦

中の沖縄戦で家族8人を失った女性から「できれば、痛がらずに死にたいと願った」ということを聞いたという。

米軍基地は何のために日本にあるのか。児童らは沖縄から帰ってきてから討論した。中国やロシアが攻めてくるかもしれない。基地があるから守られている気もする。米軍基地が攻撃されて、周りの住民が巻き込まれるかもしれない……。

結局は、クラスでは「分からない」という意見が多数を占めた。

米大統領だったバラク・オバマ氏は毎週6万5000通の手紙を受け取っていた。政策に批判的な内容であったとしても、毎日10通の返事を出していたと英BBCが報じている。

和光小の児童らが23年2月1日手紙を出した住所を首相官邸、宛先は岸田首相とした。

岸田首相は2月24日の記者会見後、報道各社が追加で示した、児童たちの手紙の質問への回答に言及した。

「一つ一つにお返事を出すことは困難でありませんが、安全保障政策については、国民の皆さんのご理解を得られるよう努めていきます」と答えた。そして担任教諭から児童に「この「回答」が伝えられた。もう少ししっかり答えてほしい。そんな声が上がリ、児童らは再び岸田首相に手紙を出したが、音沙汰はなかった。

(毎日新聞 8月15日より)



太平洋戦争末期

空襲警報についての記録

日本の各都市は米軍による空襲に見舞われた。主な大都市が焼き尽くされた1945年6月ごろからは全国の中小都市が標的になった。空襲では消火に当たることが国民の義務であり、避難するのは「非国民」と国は国民に呼び掛けた。

1945年7月28日夜。米軍機B29の「ゴウ音」が響いた。青森空襲である。母にせかさかれ外へと飛び出し町外れの高台へ避難をした。市街地を見下ろすと「焼夷弾」が空から無数に降り注いでいた。しかし「人々は危険な市街地に戻っていた」。

空襲の10日前の7月18日付の地元紙が、当時の金井元彦・青森県知事の発言を報じていた。

「一部に家をかからっぽにして逃げたりといふ者があるさうだが、もつてのほかである。こんなものは防空法によつて処罰出来る」。「戻らなければ物資の配給が受けられなくなる」などの発言で市民に動揺が広がった。そして避難をすれば助かたはずの多くの命を失った。

(注・地元紙の表現は旧仮名づかいとなっている)
「今後起きうる戦争を防ぐには、過去の政治、軍事などの現場で、なぜ異常なことが起きたのかを問うことが必要である」との指摘を、記者は福岡良明教授(立命館大)の言葉を紹介して述べている。(毎日新聞8月30日・記者の目より)

【参考文献の紹介】

これを機会に、タイトル「水島朝穂 防空法制 - 平和憲法のメッセージ」の検索をお勧めいたします。

横断歩道を渡り切れなかった高齢者

片側二車線の四車線道路の横断歩道である。

信号が青に切り替わると同時に渡りはじめた一人の高齢者。リュックを背負い、杖をついていた。あと二メートルというところで信号が変わった。青信号の時間内で渡り切れなかったのである。

歩道側車線に止まっていた車の運転手は、その老人の渡り終えるのを待っていたが、隣の車線の車は発進していった。

「信号機の時間間隔」のことを専門用語では「現示(げんじ)」と表現する。信号機は警察が管理しており、現地の信号機、または警察署の集中管理センターで「現示」の調整を行うとなっている。具体的には交通量の多い道路では交通量をさばくため、青の現示は長くなるように調整されている。つまり道路交通の管理は「車社会を優先」する内容になっているということであろう。

以上が「信号機の時間間隔」の解説である。
またよく見られる光景であり私もその一人に加えられるのだが、横断歩道の信号が「青の点滅」をしているときに小走りで無理に渡りきろうとする。しかし渡り切れない場合が多い。停止している運転手からクラクションを鳴らされる。それは一般的に赤信号で待たされる時間が比較的長いこともあって「無理をして渡ろう」とする現実もそこにある。

あらためて交通教則本なるものを開いて見た。信号の青点滅は「歩行者および自転車利用者は横断を始めてはならず、横断中の場合は、すみやかに横断を終わるか、横断をやめて引き返

さなければならぬ」と書いてある。そこで前段に戻る。渡り切れなかった杖をついていた高齢者は、信号を忠実に守り横断を開始したにもかかわらず2メートル手前で「車道信号が青」になってしまった。

日頃、お喋りである私は声を掛けてしまった。「高齢社会なのだから、青の信号時間を長くして欲しいですね」と。それに対し帰ってきたのが次の言葉であった。「そうなればありがたいですがそれでは車が渋滞します。結局は『年寄りには外に出るな、長生きするな』と言っことなのでしょうね。杖は突きたくないのですが、患ってから足腰が弱くなりましたね」と述べながら、心配かけてすみませんでしたと頭を下げて歩み去った。

横断歩道の「現示」一つをとっても、「高齢者にやさしい政治」をと述べるのは私だけであろうか。住民の政治参加である投票率は60代から70代のそれは極めて高い。ならばこれからの政治のあり方は、高齢者の意志によって決められると言っても過言ではない。

「抵抗する高齢者の一人」でありたいと思う。

報告・提言のひろば

■高齢者選挙とならざるを得ない現状は、民主党にとって大変な危機であります。何とかしなくてはという思いを皆が持ちつつも、なかなかそこから先が進みません。私たちの党地区組織も75

歳以上です。自分たちの身の回りだけで精一杯というところ。私も妻の看病により党活動、とりわけ街頭宣伝(週2回駅前)ができなくなりました。そして社民党の存在を示すには街頭宣伝が、それも定期的に行うことが良いと考えてきましたが、それが継続できなくなり残念です。どこでも同じような悩みを抱えていることだろうと思えます。これも党員の高齢化による行動力の無さです。しかし、何とか対策を考えないと党組織そのものが消えとしまつことになりかねません。

■郡山市議選の結果、お知らせ頂きありがとうございます。干票を超える得票でも当選しないというのは大変です。私の選挙区では860票で一位です。確かに労働組合の力が弱くなっていることは否めない事実です。同時に社民党や立憲民主党の後援会、そして党員の高齢化で得票能力が格段に落ちていることもあります。こちらの市議選でも、候補の出身組合の組織力が弱体化して選挙そのものを怖がっている様子が伺えました。そんな姿勢で闘えるのか?と。役員も女性が多く男性側は敬遠しているようです。いざとなれば女性の方が、勇気があるのではと思われれます。台風一過、暑さがぶり返しています。

■コロナの終息は微妙な時期で有り個々の判断での対応で行くしかないのでは?。福島原発「処理水」の放出が開始され、中国の「嫌がらせ」が日に増しています。AEEAのお墨付きだけでの対応では納得は無理なのかな?。現に中・韓両国の放射性物質トリチウムの年間排出量は福島第一の6倍を超える原発もあるとの報道を見る

(7月4日・産経新聞)。どうとらえて自国民に周知しているのが甚だ疑問です。黙殺も中国のお国事情ですか。エゴですかね。福島のお食事は十分な検査を行い出荷しています。日本の食物は一番安心だと考えます。与党が駄目なら野党がもつと発信すべき時と思います。

■猛暑に苦しむ毎日ですが、先日の雷でインターネット関連機器が故障し、全国の市民連合や憲法研究会のZOOM会議への参加に苦労しました。このような異常な気象も、人間の愚かさの結果だと忸怩たる思いです。次世代のために、あきらめずに声を上げ続けようと思っています。

■郡山市議選、結果は結果ですが候補者を立てられただけでも素晴らしいです。私のところでは2期(8年)も候補者を擁立できませんでした。普段の活動が出来ていないからと諦める訳にはいきません。「成田三原則」の日常活動の積み重ねの実行が大事にしたいと思っています。

■9号のトップニュースは「地球沸騰化の時代」でしたが、ほんとうに異常を実感させられるような日々が続きました。しかも気温、海水温などは、過去のトレンドから大きく外れるようなデータになっているとの研究報告を目にしました。さらに豪雨、台風による災害のニュースに接する中で、地球環境が後戻りできない一線をすでに越えたのではないかという懸念さえ抱いてしまします。そうでないことを祈るばかりです。「人新世の資本論」著者の斎藤幸平准教授によれば、SDGsなどと言って温暖化を阻止できる段階ではないと指摘していました。今年是我慢できずに初めて

夜間もエアコンを使ってしまいました。わたしのほうは8月初めに夏風邪かな?と思った後、体調がずっと本調子に戻らず、シャキッとした夏を過ごしました。残暑はまだ続くとのこと。福島は東京よりも暑そうです。

【出典】「SDGs・持続可能な開発目標」
SDGsとは、私たちみんなが、ひとつしかないこの地球で暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するために進むべき道を示した、つまり、ナビのようなものという意味。(2015年9月25日に、ニューヨーク国連本部で開催された国連サミットで採択)。(注・編集事務局)

■秋田大曲の「花火大会」といえば有名ですが、現地での観賞はできませんのでつばらテレビを見て楽しみました。そして気づいたことに、現地では多くの観光客がスマホを掲げての写真撮りです。また観光地の食堂を訪れた観光客が、注文したメニューにスマホを向けてシャッターを切る。そして食わずに店を出る観光客の多いことが報じられています。会計をしたのだから食べようが、食べまいが関係はないでしょう。しかし食品ロスから排出される温室効果ガスは、自動車のそれと肩を並べるほど多い。

(食品ロスについて国連の地球温暖化の科学的根拠をまとめた作業部会の最新報告書より) 楽しみ方の違いを痛感した二つの事例でした。

カンパを頂きました。

二万円のカンパを頂きました。お礼を申し上げます。(事務局)